

富樫介殿(昌家)

十月七日。足利義滿、山城南禪寺領石川郡笠間東保内黒瀬猿平五郎名の地頭笠間用盛を罷め、之を寺家に知行せしむ。

【南禪寺文書】 山城 六五三

南禪寺領加賀國笠間東保内黒瀬猿平五郎名事、地頭笠間伊勢守用盛雖申子細、別而有其沙汰、所付寺家也。於用盛者可宛行替云々。早退用盛之知行、寺家可被全領掌之狀如件。

至德二年十月七日

左大臣源朝臣(義滿) 在判

十一月。左衛門尉宗成、鳳至郡總持寺に同寺領を安堵せしむ。

【總持寺文書】 鳳至郡(端裏書)

惣持寺

六五四

能登國櫛比庄惣持寺々領事、於于子々孫々不可有違亂煩候。若至于成煩仁者可爲不孝者也。仍爲後證之狀

如件。

至德二年十一月 日

左衛門尉宗成 在判

元中三年 丙寅 京都

至德三年 京都 紀元二〇四六

正月廿八日。足利義滿、石見法眼禪嚴に、山城北野社領羽咋郡菅原莊半分を知行せしむ。

【北野神社古文書】

(足利義滿) 袖 判

六五五

北野社領能登國菅原庄半分事、石見法眼禪嚴、奉行職不可有相違。早全知行、可專神用之狀如件。

至德三年正月廿八日

九月廿五日。造宮所、加賀造宮大使をして、江沼郡熊坂莊領家方役夫工米のことに就き地下の謫責を停めしむ。

【東福寺文書】 山城

六五六

速内宮新加賀國熊坂庄領家方役夫工米事、前大使徵納分請取得出帯候間、雖可有成敗、爲後訴所及御沙汰候也。所詮先歲内停地下責、可令注進給候由、依造宮所仰執達如件。

至德參年九月廿五日

權禰宜 在判 奉
權禰宜 在判 奉

當國大使殿

九月廿九日。大徹宗令、鳳至郡總持寺常住文書の新目錄を注す。

【總持寺文書】 鳳至郡

六五七

惣持寺常住新目錄

- 一、櫛比殿寄進狀并賣券狀 四通
- 一、仁岸殿寄進狀 一通
- 一、本庄殿安堵狀 一通
- 一、本庄殿子息勘解由殿寄進狀 一通
- 一、高間殿牛町渡狀 一通
- 一、了宗内保村内寺領渡狀 二通

- 一、伊藤殿渡狀 一通
- 一、内保村宗悟寄進狀 二通
- 一、玄久吉崎渡狀 一通

至德三年九月廿九日 宗(大徹) 令 在判

九月廿九日。大徹宗令、鳳至郡總持寺法堂造立目錄を注す。

六五八

【總持寺文書】 鳳至郡

(端裏書) 惣持寺法堂造立目錄 至德三年

(大徹宗令) 在判

諸岳山惣持寺法堂鑿立日記

用途參貫文 瓶子三双

點心三百文 膝着染物一ヶ

次柱立雜用

礎石時瓶子一雙代百文 石下ニ置三十文

同金一朱 方丈點心代壹貫文

柱錢七貫文 柱絹二疋代二貫五百文

鞍置馬二疋代二貫文 引添馬疋代二貫五百文